

PMR 資格試験への挑戦

～試験は試練、試練は自己成長のチャンス～

シミックPMS株式会社 PMS部 グループ長
さいとう のりひろ
齊藤 教裕



1. はじめに

PMR 試験は、実務経歴書、論述試験、面接 2 回、2 日間のモジュール試験(ワークショップ)と、出題範囲も広く傾向と対策が困難です。私にとっては試験というより「試練」でした。でも試練は人を成長させます。この試練を経ることで自己成長ができたと思います。

2. 受験の動機

皆さん、自分自身の業務遂行レベルがどの程度か、知りたくありませんか？

2-1. 自分自身の業務遂行レベルを知りたかった

私は P2M を学習し、実務に活かしそれなりの成果を上げてきたつもりです。但しこれらは「つもり」という単なる自己満足で、自社という特殊な環境下でしか成立せず、外部環境の変化により簡単に無効/無能になるだけかもしれません。PMR 資格にチャレンジする事で第三者的な評価を得たいと考えていました。

2-2. 当事業の発展と自社の業績向上に役立つはず

私の関わっている事業は、国内で 6～7 年程度の歴史しかない新規サービスです。イノベーター理論でいうところのアーリーアダプター、PPM ではいわゆる「Star」に位置しこれから市場が拡大する／拡大させるミッションがあります。一方、前例が「なく」、ノウハウが「なく」、多数のリスクは「ある」という業界です。プログラムの発想をベースにイノベーションにチャレンジする実践力(つまり P2M の実践力)が Key Success Factor と考えているからです。

3. 受験の感想

受験対策はすぐそこにありました。

3-1. 日常業務と PMR 試験

試験範囲はまさに「なんでもあり」。P2M ガイドブックに記載の無い問題、自分自身が経験した事の無い問題が多数ありました。でも後から振り返ると日々の業務でも「教科書に無い問題」「経験した事の無い問題」と格闘しているわけで、受験対策は日常業務の中にあります。私の場合はガイドブックを相手にディスカッションをしてきました。つまり「日々の業務を実践しガイドブックの関連項目を参照する」「気づきを見出し、自分の考えとガイドブックとの相違点を考える」「修正してまた実践する」というサイクルが役立つと思います。

3-2. 受験をとおして学ぶ、成長する

モジュール試験は大変刺激になりました。試験官がチェックするプレッシャーの中、難しいテーマを初対面のメンバーが挨拶もそこそこにディスカッションし短時間で結果をまとめる。大変な「試練」でした。でも優れた方々とのディスカッションによりハッとする意見、高レベルのファシリテーション力を持った方への素直な驚きなど刺激されましたし、学び、成長のチャンスとなりました。

4. PMR としての展望

サービス業における P2M の実践とはどうあるべきか？

P2M は高い理念かつ業界を問わず普遍的と思います。一方で実践するには業界特性や実情に合わせて工夫／加工し、Action Plan レベルまで落とし込む必要がありますが、弊社のようなサービス業の場合はまだ活用事例が少ないと思います。だからこそ当業界での P2M の実践力を強化する事が、自分自身にとって強みとなり、当社にとって競合差別化ポイントとなり、当業界にとって発展につながると考えています。

また PMR として情報の発信を行い、P2M の裾野拡大に貢献できる事を目指したいと考えています。

【プロフィール】

シミック PMS 株式会社 PMS 部 グループ長

1988 年入社 2015 年 8 月 PMS 取得、2017 年 3 月 PMR 取得。医薬／ヘルスケア領域に特化したアウトソーサーであるシミックグループの中で、医薬品の市販後調査 (Post-Marketing Severance=PMS) に特化したシミック PMS(株)にてプログラム & プロジェクトマネジメント実施。